

# 施設用器具委員会報告

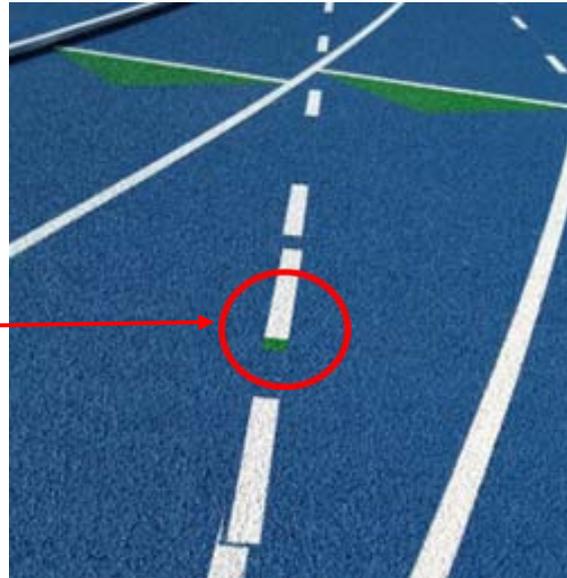
## 1. 2025施設用器具委員会関係の規則の改正

最終条文については、ルールブックで確認してください。  
地域陸協にも伝達をお願いします。

### (1) 主な競技規則の修改正

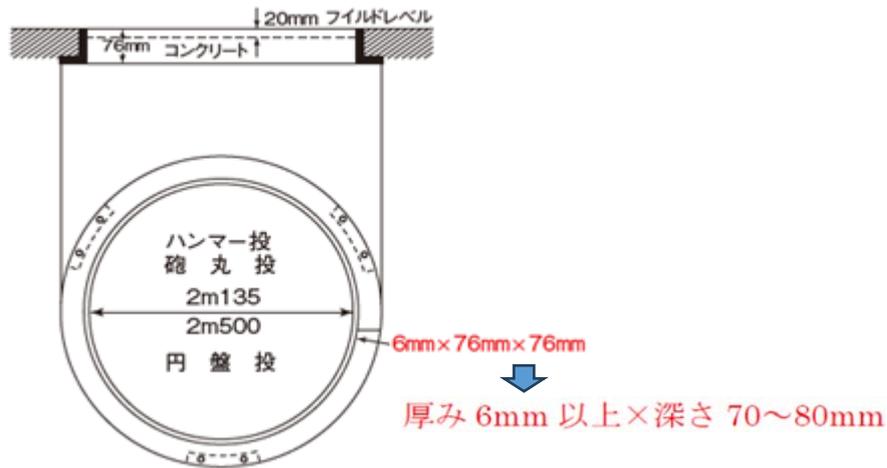
- ① CR10 [国内] ワールドランキングコンペティション定義 3. (b) により国際道路コース計測員を配置する必要がある時は、本連盟に事前に申告しなければならない。  
→ 主催者が派遣依頼を提出し施設用具委員会から派遣者を決定する。
- ② TR14.1 [注意] 曲走路から直走路または直走路から曲走路に変わるすべてのポイントには、1 レーン内側のラインの白線上に、あらかじめ検定された 50 mm × 50 mm の明確な色でマークされ、レース中はそれらのポイントのトラック内側の延長線上にコーンを設置する。  
→ 緑のマークの内側にコーンを置く。選手が中に入った時、直走路と曲走路の境を監察員が認識するためのコーン。

トラック内側にコーンを置く

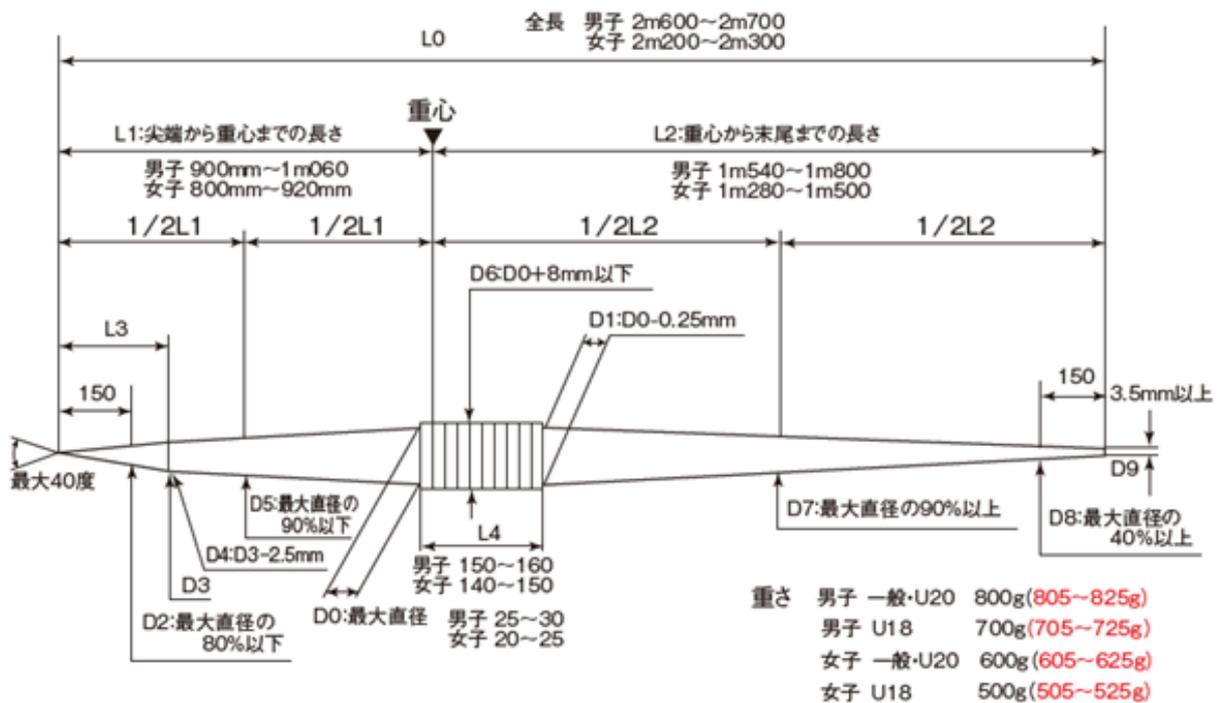


- ③ TR17.5.1 [国内] iii 500m 競走の競技方法  
→ スタート位置の検定が必要です。  
iv 600m 競走  
→ MDRのスタートを利用します。(検定不要)
- ④ TR32.1 [国内] ワールドランキングコンペティションでは本連盟検定品かつ WA 認証品のみを使用する。  
→ 競技場備え付けの投てきリストを作成しておく。

- ⑤ TR32.7 図の寸法の変更  
 → 条文に合わせて厚みと深さとする。



- ⑥ TR38.11 やりの重さの範囲を削除  
 → やりの重さはその重量があればよい。  
 + 5g~25g は製造会社が製作する時の基準となっている。



- ⑦ TR41.3 室内競技場の厚み  
 → 施設管理者が使用を認めることになる。
- ⑧ TR54.1 競歩競技の標準となる距離にハーフマラソン、マラソンの追加  
 (2026年1月1日から適用)  
 → 検定が必要となります。詳細は検討中。

## (2) 陸上競技場公認に関する細則の改正

### ① 第10条 (標識)

ラインをいれない種目に2000m障害が入っていなかったため、追加する。

### ② 第13条 (障害物競走)

固定障害物のバーは製造時検定をしているので、「現場検定とする」を削除する。

### ③ 別表1 全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表

- ・ 100m、110mHスタート付近の破線の統一と水濠からの破線を代用縁石が置きやすいように破線を追加する。  
破線の統一は塗り直し時に変更する。
- ・ ハードルの位置のナンバーの表示を2012年に削除したが、ナンバーを再掲示する。
- ・ 走高跳の位置とやり投助走路との関係を実態にあわせた整合と判定補助線の位置の明確化をする。
- ・ やり投助走路の4m地点のマークをわかりやすく表示する。

### ④ 別表2 用器具一覧

- ・ 競技会での使用実態に合わせた変更。  
10k秤(上皿天秤の削除、1g単位計測のもの)、競歩用掲示板、兼用サークル、記録標識、
- ・ 4種Lの整備に整合するための変更。  
代用縁石、やり検定器、リボンロッド、ポール
- ・ 上記整理によりの整理：[区別]4( )は備付を希望するもの。投てき用具、障害物競走用具は競技施設があるときは備え付ける。

## (3) 長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則の改正

### ① 競技規則による競歩競技の標準となる距離の追加

※日本の対応決定後

(競走(歩)路)

第2条 略

- (2) 競歩路 5 km、10 km、15 km、20 km、ハーフマラソン、30 km、35 km、マラソン、50 km、男女混合競歩リレー (マラソンの距離)

### ② 申請書の添付書類の追加

- ・ 所属加盟団体が公認大会、WRK大会の開催を確認するための添付資料追加する。(申請者が作成)
- ・ 公認大会でない検定申請、主催権がない団体の検定申請、駅伝コースの検定申請が見受けられる。
- ・ WRKの大会でなければWAランキングとならなくなった。必ずしもWA認証コースが必要でないコースが見受けられる。

## 【公認長距離競走路・競歩路認定申請書添付書類】 (案)

公認長距離競走路・競歩路認定申請書を受け付ける際に、公認大会の開催を確認するため、下記1の記入と2の添付を申請に併せて提出してください。

なお、公認大会開催の確認ができない場合は認定申請の了承ができません。

また、WA認証コースを必要とするコースのみ申請ができます。

申請できるコースとは例えば

- ・ WRk大会を開催(予定)のコース
- ・ AIMSの認証を受けるコース

### 1. 申請コースの公認競技会を開催する確認

申請するコースの公認大会名	
公認大会の主催・共催	
公認大会の主管陸協	
公認大会を開始した年度	
申請後最初の公認大会の日	
WA認証コースを必要とする理由	

\* WA認証コースを必要とする理由には、WRk大会の開催の有無、開催(予定)時期、AIMS認証などを記入してください。

#### 公認競技会規程

(公認競技会の主催)

##### 第3条 10.

道路競走競技会において、本連盟、加盟団体、加入団体(ただし、郡市区町村陸上競技協会に限る)、地域陸上競技協会が共催または主管し、且つ次の各号を順守することを条件に、本連盟は、地方公共団体その他本連盟が認める団体に、当該競技会について、公認競技会を主催する権利を委譲することができる。

- ① 医師を含む医務員を複数名任命すること
- ② 緊急医療体制(AEDの配置を含む)を整備すること
- ③ 競技者、競技役員に対して傷害事故、疾病事故に対応し得る保険に加入すること

### 2. 大会要項等

公認競技会を開催することがわかる大会要項、開催要項等を別途添付してください。  
継続して大会を開催しているコースは、前年のものでも可。

## 2. 競技会の派遣について

### (1) 技術総務の派遣

- ・ J T O の業務を補完するため、技術総務の任務について助言提言するため、施設用器具委員会から技術総務を派遣しています。
- ・ 派遣している大会：国体、日本選手権、U16・U18 日本選手権、日本選手権混成、ゴールドングランプリ、インターハイの 6 競技会
- ・ 助言する任務は、投てき用具の検査方法、投てき用囲いの設置などの安全運用、推奨する技術総務/公式計測員の任務作業内容を主管陸協担当者に指導伝達している。
- ・ 事前に「技術総務確認事項」送付して、競技場の用器具の確認、施設配置、ハードルの設置、角度線、距離線の設置、投てき用具の検査等について準備をさせていただいている。

### (2) 国際道路コース計測員の派遣

- ・ 世界記録、アジア記録の認定は、WA 認証コースでなければできません。この場合、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則 CR31. 21. 4）
- ・ 当初のコース計測を行った計測員（A 級、B 級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- ・ 施設用器具委員から国際道路コース計測員の派遣をしています。
- ・ **WRK の競技会では国際道路コース計測員の任命が必須となりました。**（競技規則 CR10）陸連の主催、後援競技会、WRK の競技会では、国際道路コース計測員の派遣をすることになります。 主催以外の後援競技会・WRK の競技会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- ・ プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

## 3. 競技会での注意事項

### (1) 300mH 設置の注意事項

- ・ 競技会で実施されてきています。日本独自の U20、U18 の種目となり、すべての競技場で必要ではないことから設置の義務付けはしていません。各陸協で設置を必要とする競技場に設置をしてください。
- ・ 標識タイルでない費用負担の少ない表示方法としています。
- ・ マーキングはしていませんので、競技会時に設置位置をマーキングしてください。チョーク付きの水糸を利用すると簡単に早く設置ができます。
- ・ ハードルの高さは、男子 U20、914 mm、U18、838 mm、女子 762 mm。男子 U20、U18 で高さが違うので注意してください。
- ・ 150m のスタートと兼ねています。300mH が設置されているところは新たに標識を設置する必要はありません。

150m スタート … 300mH のハードル 4 台目と同じ

【参考】145m のスタート位置 … 400mH のハードル 7 台目と同じ

### (2) 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方

- ・ 競技規則により、国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁

石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から 300mm の所で計測している。

- ・ 代用縁石を設置する際は、競技場保有の代用縁石の数が不足しているため、1本おきとしていたが、競技規則に従い全線に置く必要がある。
- ・ 競技場の水濠付近の縁石の設置と代用縁石の補充整備を進めている。
- ・ グループスタートラインから 10m 程度は縁石を置かずに、コーンをスタートライン、縁石のはじめ、中間に設置する。後方の選手はこのコーンの間を通過してよい。
- ・ 走高跳、やり投の競技と重複する時には、その部分をあけてコーンを設置する。



スタート付近のコーン設置



走高跳助走路のコーン設置

### (3) 秤の調整

- ・ 投てき物を図るには秤が必要です。1g 単位が計測できるものへ規則改正をします。
- ・ 重さは緯度によって影響があります。投てき物を測る秤は、必ず 10K の確認をしてください。持ち込検査で正しく判断できるようにしてください。少なくともシーズン初めには確認をしていただきたい。
- ・ 違っている時には取扱説明書により調整をしてください。



### (4) ワールドランキングコンペティションでの投てき物の使用

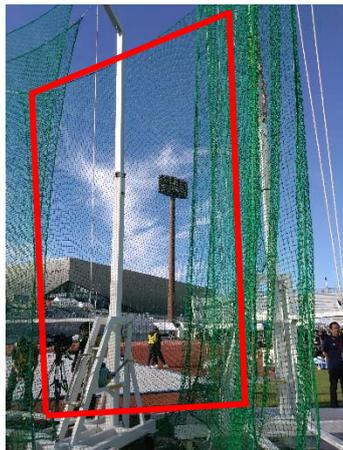
- ・ WA 認証品の使用が明記された。(TR32.1) 投てき物のリストには、WA 認証番号と規格を記入して作成するようにしてください。最新の製品はWAのHPに掲載されている。日本陸連の検定品にはWA認証品ではない物があります。WA認証取得を要請しています。

主催者が用意する投てき物一覧表

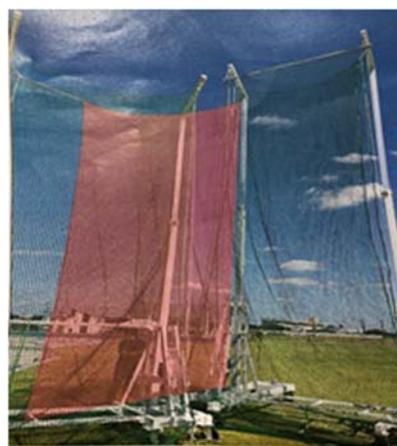
器具	種別	メーカー	品名等	WA認証番号	規格等	数量	合計
やり	男子(800g)	NISHI NORDIC	スーパー80m	I-01-0236	White	1	8
			エフク*ライク*スライflex6.1(steel)	I-99-0011	Red/white, red cord	1	
			チャンピオン*オンスティール	I-99-0012	Yellow	1	
			スーパ*エリートスティール90m	I-99-0020	White	1	
			オセ*ットスティールflex6.6	I-99-0014	Blue/White	1	
		NEMETH	クラシック95m	I-09-0400	Violet/yellow/orange	1	
			クラシック90m	I-09-0100	Violet/yellow/green,violet cord	1	
			クラシック85m	I-09-0429	Violet/yellow/magenta,violet cord	1	

## (5) 囲いの安全確保

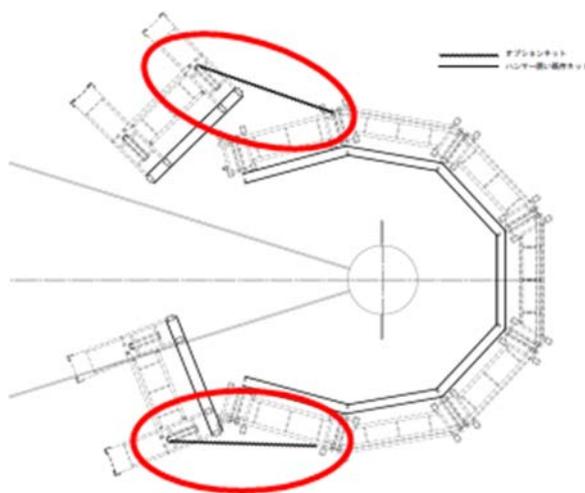
- ・ 2023年8月に実施されたインターハイで、男子ハンマー投げ競技中選手が投げたハンマーが囲いの隙間から外に飛び出し、選手控えテントにあたり落下した。
- ・ WA規格の囲いは本体と前パネルが一体となっており隙間がないが、従来型はどうしても隙間が生じるため、台座部分をかみ合わせ、隙間を最小限にする措置がとられているが、度重なる移動により隙間が広がる可能性がある。
- ・ これを防止するために、補助ネットを張る方法が提案され、佐賀国民スポーツ大会で使用された。安全確保に有効であった。今後も安全に対する対応が、重要となってくる。



佐賀国スポ設置例



補助ネット設置例(ニシ・スポーツ提供)



## (6) 長距離競走路、競歩路コース設定の注意

- ・ 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- ・ 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- ・ 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- ・ 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ず途中計時箇所にラインを入れてください。